

帯広西ロータリークラブ 第2013回例会 2013.9.19 会報



■RI第2500地区テーマ■

「讚えよう地域を!クラブを!会員(自分も)を!
ロータリーとの出会いに感謝!



■クラブ・テーマ■

「ロータリークラブに出席し、ロータリーを楽しもう」
(Attend at the Rotary Club, and let's enjoy a rotary)

ゲスト紹介

帯広市教育委員会 生涯学習部 企画調整監 敦賀 光裕 様
とかちチームAA 新田 昌樹 様
米山奨学生 カミングキード, キャサリン 様

会長報告

齊藤憲生会長

先日、当クラブ歴代会長の河合健一様がお亡くなりになられました。一報を受けた時、つい先日元気な顔を拝見したばかりでしたので「えっ、そうなんですか」ということで驚いたයි。そのあと奥田幹事と大空のご自宅まで弔問に行っていました。まず河合先生のお顔ですけども穏やかな顔をして寝息が聞こえそうな雰囲気、そんなことはありませんんですけども、そんな穏やかな顔をしておられました。そのあと奥様とお話をさせていただきました。奥様曰く非常に突然のことだったので、今でも起きてきそうなそんな感じがしておりますと話しておられました。日曜日にはお孫さんと一緒にお食事をされていたというお話ですが、「さあ寝ようか」ということでお父さんのことを見に行ったら、左手が痺れて持ち上がらないんだという話をされてまして、そのまま苦しまずに亡くなられた。死因は脳梗塞です。西ロータリーでも一番の年長者なので、クラブにとっても一番の宝を無くしたと、このような感じをしております。優しい優しい先生でした。心よりご哀悼を申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。さて今日は明治北海道十勝オーバルに移動して例会をいたします。このオーバル、今から6年前に完成をみまして、長野のエムウェーブに続く、400mのダブルトラックを有する公式の屋内スケート場ということで、このあと敦賀光裕様にオープンからこれまでの状況について講和をいただきますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



会務報告

奥田頼昌幹事

- ①帯広南RC、9月23日(月)の例会は、祝日のため例会と致します。
- ②帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日 時 9月26日(木)午後6時30分
場 所 北海道ホテル

- ③帯広南RC、夜間例会開催のご案内(ガバナー公式訪問)
日 時 9月27日(金)午後5時30分
場 所 北海道ホテル
※尚、9月30日(月)の繰上げ例会と致します。
- ④RI第2500地区大会開催のご案内
日 時 10月11日(金)~10月13日(日)
場 所 釧路市観光国際交流センター
大会登録料 13,000円

▶プログラム プログラム委員会 太田 豊委員長

7月に続きまして第二回目のプログラム委員会の例会を移動例会ということで多数お集まりいただきましたありがとうございます。今回も地元地域に根差した話題提供ということで、国内で二番目の屋内スケート競技場として誕生いたしました明治十勝オーバルにおいて開催をさせていただきます。ここ十勝帯広は清水選手をはじめオリンピック選手を多数輩出したスケート王国・十勝のシンボルとして多くの議論の中、誕生いたしました施設の役割や地域への経済波及効果を含めまして、本日は帯広市よりたいへんお忙しい中、敦賀調整監をお迎えいたしましてお話をさせていただき、皆さんに理解していただきたいと思っております。また講和の後でございますけれども施設の概要ということで施設見学もさせていただきますが、ちょっと無理なお願ひをいたしまして帯広のクラブに所属されておりますとかちチームAAの新田選手に滑走をしていただきまして、皆さんにご覧いただきたいと思っております。新田選手は白樺学園をご卒業後、全日本ジュニアチャンピオンに輝いた1000mといった中距離の選手でございます。来年のロシア・ソチ五輪を夢見て日夜練習に励んでおられます。滑走中ですが、せっかく帯広スケート連盟の副会長、そして北海道スケート連盟の理事であられます平田さんがいらっしゃいますので、新田さんのスケティングを見ながら平田さんの解説をいただけたらと思っております。それでは早速、敦賀調整監からパワーポイントを使いましてのご説明がございますのでどうぞよろしくお願ひいたします。【裏面に続く】

2013年 9月 新世代のための月間

ニコニコ 献金 累計 160,000円 (9月19日現在)



会 長 齊藤 憲生 副会長 佐藤 聡 会場監督理事 横田 幸宏 発行：広報委員会
幹 事 奥田 頼昌 副会長 石原 英樹 プログラム委員会理事 太田 豊 委員長 北川 勝啓 (副)森 房明





帯広市教育委員会
生涯学習部 企画調整監
敦賀 光裕 様

「帯広の森屋内スピードスケート場 平成21年度オープンからこれまでの状況」

帯広市教育委員会、事務局の敦賀と申します。

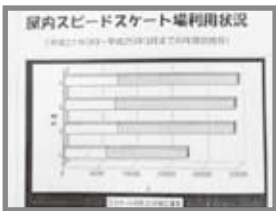
この明治北海道十勝オーバルをはじめ、帯広の森エリアには野球場、陸上競技場、球技場、柔道場、アーチェリー場、テニスコートなど13の体育施設が集中しております。その中の一番新しい施設がこの施設ということになりますが、図書館、文化ホール、動物園などが私ども教育委員会が管轄している施設でございます。ただ体育施設につきましては指定管理者制度というのを使っておりまして、実際の管理は帯広市文化スポーツ振興財団というところに委託をしているということになります。



21年度にオープンいたしまして明治北海道十勝オーバルという名前になっておりますが、条例上は「帯広の森屋内スピードスケート場」が正式名称です。所在地は残念ながら芽室町になります。帯広の森運動場のすべてが芽室町になりまして野球場の一部だけが帯広市南町南8線ということになります。ここでいろんな大会をやる時に一番苦労するのが新聞社で発信地を表示する際に、国内すべての新聞社に、住所表記をせずに「帯広の森」と書けないでしょうかと掛け合まして、「事情はよくわからないけども」と了解を得まして、大体ここを表すときには「帯広の森」ということでお願いをしてあります。平成21年9月にオープンしておりますが、それまでいろいろな議論が市民の皆さん、市議会の中で繰り広げられました。オープンしてからしばらくの間もいろいろなお話があったり、今でもいろいろな課題が解決しているわけではありませんので皆さんにはこのへんをお話したいと思うのですが、その前にこちらの施設に初めていらっしゃったという方はどれくらいいらっしゃいますか?オープンから5年目に入っておりますけども多くの市民の皆さんにご利用いただいております。そもそも屋内スピードスケート場がなぜ必要かということですけども、オリンピック選手にとってはスピードスケート競技は長野でしか開催できないということもあり、スピードスケートにおいて帯広は王国であり、メッカであり、こないだのオリンピックでも19人中10人が十勝出身者であるということですから、長野ではなくて帯広に屋内リンクをぜひ作ってほしいと清水選手からもありましたし、期成会もできましたし、経済界はじめ多くの方からも要望がありました。帯広市もフロンティアの問題がありパイピングのやり替えをしなくてはならないタイミングに当たったことで、「やっぱりスケートといったら十勝だよ」という気運の中、帯広市としても屋内スピードスケート場を作ろうと。そのときは帯広市役所ではなく「道立」を目指して協議会をつくり、道議会の皆さんの協力を得ながら薦めてまいりましたが、道としては財政的に厳しく国の補助金を活用してはいかかかという話しをいただき、「融資」という形態ではなくて地域からの提案として国や北海道からの補助金をもらって建てていこうという考え方であります。このあたりパイピングリンクか屋内リンクか明確でないと認可が下りないといっておりますけども、行政側からしますと屋外のリンクで年間維持費が7~8000万、屋内のリンクを建設した場合、その当方で60億くらい掛かる。その半分の30億を国から、残り30億の半分は北海道がだしてくれそうだとということで、帯広市の手出しが15億ならいけそうだと当時の市長も判断したわけです。そして平成15年から運動をはじめ平成17年にほぼ目途がたちましたので期成会を中心に基本計画、基本設計を行いました。平成18年、19年、20年に工事を経て平成21年にオープンに至ったわけですが、そのときからの利用状況についてパワーポイントで説明いたします。一年目は9月からですから利用者数が少ないのですが、通常は7月から3月までが一般利用者がスピードスケートの滑れる期間となり、それ以外の期間はNTCの強化選手が利用することになります。中地は後程、平田さんが案内していただきますがテニスコート、フットサルといった通年型の施設がありますので雨などを気にせずに練習することができますし、陸上選手なども内径で460mほどありますので冬場もトレーニングすることができ、春先の屋外大会では十勝の選手が上位を占めることができました。スピードスケート場なのですがスピードスケート以外にもいろいろ使えるということになります。

屋内スピードスケート場誕生まで

- 平成10年(1998年) 高教委委託シンポジウムで清水選手がモデル提出
- 平成11年(1999年) 道立屋内スピードスケート場建設協議会が設立
- 平成15年(2003年) 建設から地域提案型施設整備へ
- 平成17年(2005年) 基本計画策定、基本設計
- 北海道からも帯広市に屋内スピードスケート場建設を要請



屋内スピードスケート場利用状況
(平成21年度～平成22年度(計画)までの利用状況)

- 平成21年度(2009年)
 - ・第1回オールジャパン10歳未満大会アジア選手権
 - ・2009アジアジュニア10歳未満選手権大会
 - ・2009世界スノーボード選手権大会
 - ・2009ISUワールドカップ500m種別大会
- 平成22年度(2010年)
 - ・2010世界ジュニア10歳未満選手権大会
 - ・2010/11ISUワールドカップアジアファイナル
- 平成23年度(2011年)
 - ・2011世界アジア大会

屋内スピードスケート場の効果

- ・国のナショナルトレーニングセンター指定
- ・合宿利用の増加や地域経済への効果増大
- ・ジュニア層のスケート人口の増加
- ・将来にわたる「スケート王国」の地位
- ・テニス、サッカー、陸上等の競技の活性化
- ・通年利用施設の特徴を活かしたスポーツセンター
- ・国際大会を通じたボランティア体制の確立
- ・さまざまなスポーツの発展促進

屋内スピードスケート場の課題

- ・維持管理費の増大
- ・年間2回限りの練習場の不足
- ・トレーニングや大会開催による交通の渋滞
- ・市民利用等の拡大
- ・スケートの一般利用の拡大
- ・市民理解の促進
- ・利用状況、経済効果などの市民への情報提供
- ・国際大会、国内大会規模大会への市民献金募金

(謝辞 齊藤憲生会長) 敦賀さま、たいへんありがとうございました。あといろいろと運営面でもご苦労されているかと思っておりますので皆さん、ぜひ広告のほうのご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。

(施設見学)



新田昌樹選手



新田選手デモ滑走

